

発展途上国へ日本の中古自動車部品・中古車を輸出！

(会宝産業 株式会社)

会社概要(平成24年8月現在)

- 所在地: 石川県金沢市東蚊爪町1丁目25番地
- 代表者: 代表取締役 近藤 典彦
- 資本金: 5,700万円
- 売上高: 22億円
- 従業員数: 62名
- URL: <http://www.kaiho.co.jp/jp/>

①事業概要

<中古車、部品の輸出版売>

同社は、中古車自動車部品の輸出、国内販売、及び使用済自動車の買取や処理を行っている。

消耗品は別として、自動車は本来走行距離50～60万kmまで耐えられるところ、日本では10万km程度で廃車扱いになる。発展途上国では、そもそも車検制度が無いため壊れるまで使う。そのため、日本の中古自動車部品、特にエンジン部品は他国からのニーズが高い。

このような日本の車の使用期限と諸外国の使用期限のギャップをビジネスにしており、アフリカや東南アジアにある合弁会社を通じ日本から自動車部品を輸出している。

②海外展開概要

<東南アジア等における合弁会社設立>

海外展開に係る取組については、タイ、シンガポール、ガーナ、ケニア、ナイジェリアに合弁会社を設立している。

同社は年間に14,000台の自動車を解体しこのうち7割に相当する10,000台分のエンジン部品と、商社機能として国内同業者から調達した20,000台分のエンジン部品を輸出している。ナイジェリア、ガーナへの進出は、日頃の取引相手からの紹介がきっかけ。

ナイジェリアの放置車両の数は8,000台と、他の国と比較しても多く、社会問題となっている。平成23年に現地に合弁会社を設立した。また、同国では中国製の部品で生産された自動車の事故が多発しており、日本の車検制度の普及についての協力依頼もきている。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

ナイジェリアでは国際協力機構(JICA)の支援を受け平成25年3月末に使用済み自動車を解体する同社として最初の海外生産拠点を設ける。

JICAについては、平成19年にNPO法人「RUMアライアンス」が同社敷地内に自動車リサイクル(解体)の教育センターIRECを建設、人材交流を契機に関係が深まっていった。

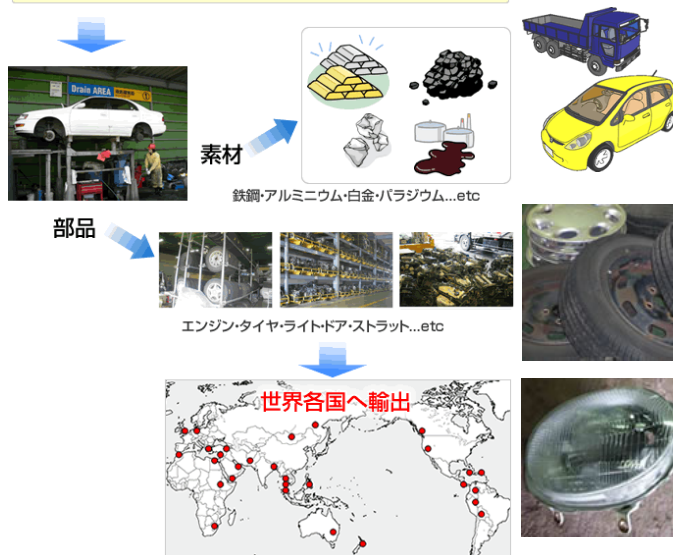
現在JICAの事業である「ODAを活用した中小企業等の海外展開支援のための委託事業による調査業務」、「協力準備調査(BOP ビジネス連携促進)」、研修制度等に申請し、活用している。

④今後の事業展開について

パイロットプラントに対する支援施策や、特定非営利活動法人国際社会貢献センター(ABIC)等の支援機関に関する情報収集を引き続き行っていく。また、経済産業省の施策である「高度グローバル経営人材育成事業」、「新連携支援事業」への提案を行う等、施策を引き続き積極的に活用していく。

事業内容:自動車リサイクル、中古自動車部品輸出、販売

新車ディーラー、中古車販売店、リース会社、自動車修理工場、自動車钣金工場、自動車解体業者、一般顧客



(平成24年8月現在)

データ出所: 中部経済産業局